



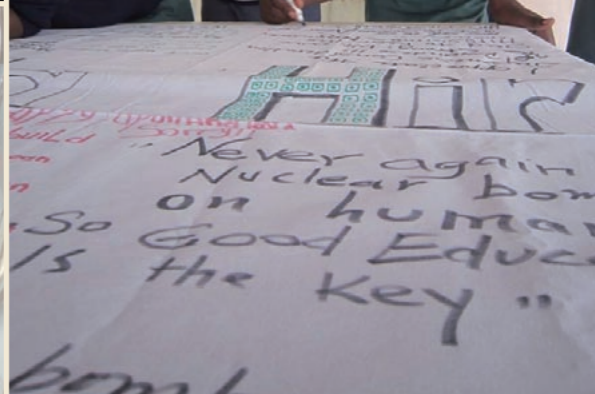
企画
した人!

広島市JICAデスク 国際協力推進員
濱長 真紀さん



発案
した人!

NPO法人ルワンダの教育を考える会 理事長
カンベンガ・マリールイズさん



2012年、広島でのマリールイズさんの講演で、「ルワンダでヒロシマ・ナガサキのことを伝えたい」という言葉を聞き、早速彼女を訪ねて原爆・復興展の企画を持ち掛けました。私は広島出身で、学生時代からルワンダにも関心があったからです。ただ、原爆と虐殺は歴史も背景も違うもの。広島・長崎の経験からルワンダの人が何か感じてくれるのか不安もありました。しかし、来場者の反応は予想以上でした。「原爆投下から69年で、ヒロシマ・ナガサキはこんなに復興している。私たちもできるんだと希望を見いだせる」「ルワンダの見本になってくれてありがとう」「いつか日本みたいになれるかな」。そんなうれしい言葉をもらいました。ただ、ルワンダでは、虐殺や民族について話すことはタブーとされています。口にするのができない苦しさはどうすればいいのか、「赦す」とはどういうことか、今もみんな葛藤しています。ルワンダを訪ね、私もその「もやもや」とした気持ちを持ち続けています。きっと答えはない。だからこそ、それを周りに伝えて共に平和について考えることが大切だと思っています。

ルワンダは私の母国です。1993年にJICAの洋裁の研修で日本に来た時に広島の平和記念資料館を訪ね、「なんて戦争はおろかなことか」と、涙を流しながら見学しました。広島で起きたことを、もっと多くの人が知らなければ。ずっとそう考えていました。しかしその翌年にルワンダで内戦が勃発し、私は必死の逃亡を経て再び日本へ。ルワンダの教育支援を行うNGOを立ち上げ、日本全国を飛び回っています。あれから20年、JICAの濱長さんとの出会いを機に、ルワンダで原爆・復興展の開催にこぎつけました。最も印象的だったのは、虐殺で片腕を失い、子どもを亡くしたカラシラ・ヴェヌステさん(61歳)と、14歳の時に広島で被爆した山本定男さん(83歳)のインターネットでの交流。体験談を語り合い、「一緒に未来のためにがんばりましょう」と励まし合う二人の姿は感動的でした。境遇は違っても、互いの痛みを分かち合える。それが会場の人たちにも伝わっていました。ルワンダに日本の歴史を伝え、あらためて共に平和を考える意義ある時間でした。

準備
した人!



青年海外協力隊
森田 光一さん、内藤 俊輔さん、小山 希さん

原爆・復興展の本格的な準備が始まったのは、開催の約1カ月前。濱長さんから相談を受け、ルワンダで活動中の青年海外協力隊員約30人が手を挙げました。ポスターなどを作る美術班、原寸大の原子爆弾のレプリカなどを作成する工作班、折り紙教室を開催する折り鶴班などに分かれて準備を進めました。地方で活動中の隊員は週末に首都に通ったりと苦勞もありましたが、共に一

つのイベントをつくりあげていくことがやりがいでした。テレビやラジオなどの記者発表やポスター展示などで積極的に宣伝したこともあって、子どもから大人まで延べ436人が来場。原爆の被害について写真で分かりやすく説明したり、両国の中高校生をインターネットでつないで意見交換してもらったりと、未来を担う若い世代に気付きを与える場になるよう工夫しました。

ルワンダで活動していると、まだまだ虐殺の傷は癒えていないと感じる時があります。だからこそ、両国の悲しい過去を共有し、復興と発展の希望を多くの人が感じられたことに意義があったと思います。そして私たち日本人も、自分の国の歴史を正しく理解し、平和の在り方について自分の考えを持つことが必要だとも感じることができ、何事にも代えがたい経験になりました。

原爆・復興展 in ルワンダ に託す思い

1994年、アフリカのルワンダで起きた大虐殺。フツ族とツチ族の対立により、わずか3カ月で約80万人ともいわれる多くの犠牲者が出た。この悲しい出来事から20年、ルワンダは新しい国づくりを進めている。

今年8月、そんなルワンダの首都キガリで広島・長崎の経験を伝える「原爆・復興展」が開催された。世界で唯一、原子爆弾が投下された街として、紛争から20年がたったこの国で平和への願いを共有したいという思いからだ。

これまでも世界各地で活動する青年海外協力隊が、開発途上国の人々に原爆の悲惨さについて写真や映像で伝え、平和について考えてもらおうと実施してきたこのイベント。その数は60カ国以上、約120回にもおよぶ。

今回のルワンダでの開催は、ルワンダ出身で母国の教育支援に取り組みカンベンガ・マリールイズさんと、広島出身のJICA国際協力推進員の濱長真紀さんによる企画。現地で活動する青年海外協力隊員たちの力強い協力もあって実現した。虐殺と原爆。悲劇を経験した人々ほどのようにつながったのだろうか。

a. 平和のメッセージを書く子どもたち
b. 原爆によりどんな被害を受けたか説明
c. 子どもたちは世界地図にも興味津々
d. 戦時下の広島と長崎についての写真を真剣に見つめる